高雄市立図書館（台湾）と覚書を締結！



左から石田市長、李金鴦館長、奥正史所長

図書館から広がる台湾との交流

9月19日(土)、市は台湾・高雄市立図書館と、地域の魅力発信や文化交流、観光などに関する協力関係の覚書を日本台湾交流協会高雄事務所の奥正史所長が立ち合いのもと、締結しました。高雄市立図書館は、日本語の書籍も多数所蔵するなど、日本との交流にも力を入れています。今回の覚書締結は、国内では東京都八王子市立図書館に次いで2例目となります。

なぜ、高雄市立図書館なの？

交流のきっかけは、令和6年に高雄市立図書館の李金鴦館長が高梁市図書館を訪れたことでした。本を通じた交流から相互訪問へと発展し、今回の覚書締結につながりました。

高雄市立図書館は、本を通じた交流だけでなく、地域の文化や魅力を発信する拠点でもあります。図書館同士の連携を核に、幅広い分野で交流を深め、市の魅力を海外へ発信できると考えています。

高雄市ってどんなところ？

台湾南部に位置する高雄市は、台湾第3の都市です。台湾最大の国際貿易港である高雄港を有する港町で、温暖な気候に恵まれています。レトロな倉庫街、美しいステンドグラスが印象的な駅、活気あふれる夜市など、新旧の魅力が共存するまちです。


高雄市立図書館 外観



「高雄城市書展」に参加しました！

9月19日(土)、20日(日)に高雄市立図書館総館で開催された「2026高雄城市書展」に石田市長以下5人の訪問団が参加しました。

会場には約80の書店がブースを出展し、講演や講座が2日間で29回行われました。また、本や文化に触れるさまざまなイベントが催され、多くの人でにぎわっていました。

幅広い世代の人々が本を通じた交流を楽しむ姿が印象的で、読書や図書館が人と人をつなぐ力を改めて感じました。



高雄城市書展 開会式

高梁市と高梁市図書館の魅力をPR！

講演会場では、石田市長が高梁市の歴史や自然、特産品、高梁市図書館の魅力をPRしました。50人定員の会場は満席で、来場者は熱心に聴き入っていました。イベント会場では、高梁市図書館と高梁市観光協会がブースを出展し、PRを行いました。200部用意した観光パンフレットなどもなくなるほど、多くの人が訪れました。

今回の出展は、市の魅力を台湾の皆さんに伝える貴重な機会となり、新たな交流の可能性を感じました。

今後はどうしていくの？

今後は、高雄市立図書館との連携を深め、図書館同士の交流を核に、文化・教育交流や観光情報の発信など、幅広い分野での協力を進めます。

高梁市の歴史や文化、観光情報、特産品などの魅力を台湾に向けて発信し、新たな交流や誘客につなげていきます。


高梁の魅力をPRする石田市長


多くの人が訪れた高梁のブース

手話でつながる 心と心

第9回全国手話言語市区長会「手話劇祭 in 高梁」が開催されました

全663市区長団体で構成する全国手話言語市区長会は、手話への理解を広げ、誰もが自分らしく暮らせる社会を目指しています。その取り組みの一環として10月18日（日）、高梁総合文化会館で「手話劇祭」が開催され、県内外から約600人が参加しました。この手話劇は、持ち回りで開催されており、今年度は高梁市で開催されたものです。歌や講演、演劇などを通じて、手話が言語であることを広く伝え、手話への理解と普及を呼び掛けました。



富家小学校「あしたは はれる」など▶

オープニングでは、全校児童28人が出演し、日ごろから授業で手話に親しみ、「ひとりじゃないよ」「明日はきっといい日になるよ」という温かな応援のメッセージを歌と手話に込めて披露し、会場からは、大きな拍手が湧きました。

舞台で広がる手話の表現



▲岡山聾学校 エピソードトーク

1950年12月の寄宿舎火災を当時の児童が振り返り、災害時の情報伝達や避難、障がいの特性に応じた防災の大切さを伝えました。



▲手話朗読「かぜのでんわ」など

岡山県手話通訳問題研究会手話朗読班のメンバーが、命の大切さを伝える絵本の作品に込められた思いや物語の世界を手話朗読で表現しました。



▲日本舞踊「獅子の乱曲」

演者の芳瞳宣太郎（ほうどうせんたろう）さんは、先天性難聴があり、両耳に補聴器を使用。３歳から日本舞踊を始めました。髪を大きく振り、躍動する獅子を表現しました。



▲高梁高校手話歌「友よ～この先もずっと…」

家政科で福祉を選択する有志18人が出演。授業で学んだ手話を通じたコミュニケーションの成果を歌に込めて披露しました。

手話でつながる仲間たち



◀手話劇「おいでんせぇ～高梁！」

高梁市手話ボランティアの会、成羽手話サークル、備中町手話サークルほたるの会が合同出演しました。幕末藩士や猫城主さんじゅーろー、松山踊りなどをユーモアたっぷりに表現し、高梁市の歴史や文化をPRしました。

さまざまなエピソードと想い



◀講演会「東京2025デフリンピックを目指して」

片山結愛（かたやまゆめ）さんは、先天性難聴があり、右耳に人工内耳、左耳に補聴器を使用。東京デフリンピックデフバドミントン日本代表として混合団体戦で金メダルを獲得するまでの競技人生で直面した経緯や挑戦、努力などについて講演しました。



◀閉会あいさつ・フィナーレ

次期開催市の長崎県大村市の園田裕史（そのだひろし）市長あいさつの後、出演者がステージへ。手を振り合い、笑顔と拍手に包まれながら手話劇祭は幕を閉じました。

手話は、人と人とが想いを伝え合うための言語の一つです。まずは知ること、関心を持つことから。手話がもっと身近な存在となり、誰もが自然にコミュニケーションを楽しめる社会を目指しましょう。

高梁市の市外局番は「0866」です